

貸
出
用

人口問題研究所
研究資料第116号
昭和31年3月10日

農家世帯員の就職及び結婚 の機縁に関する調査資料

— 山梨県中巨摩郡玉穂村における昭和
30年度総合調査結果の部分報告 —

厚生省 人口問題研究所

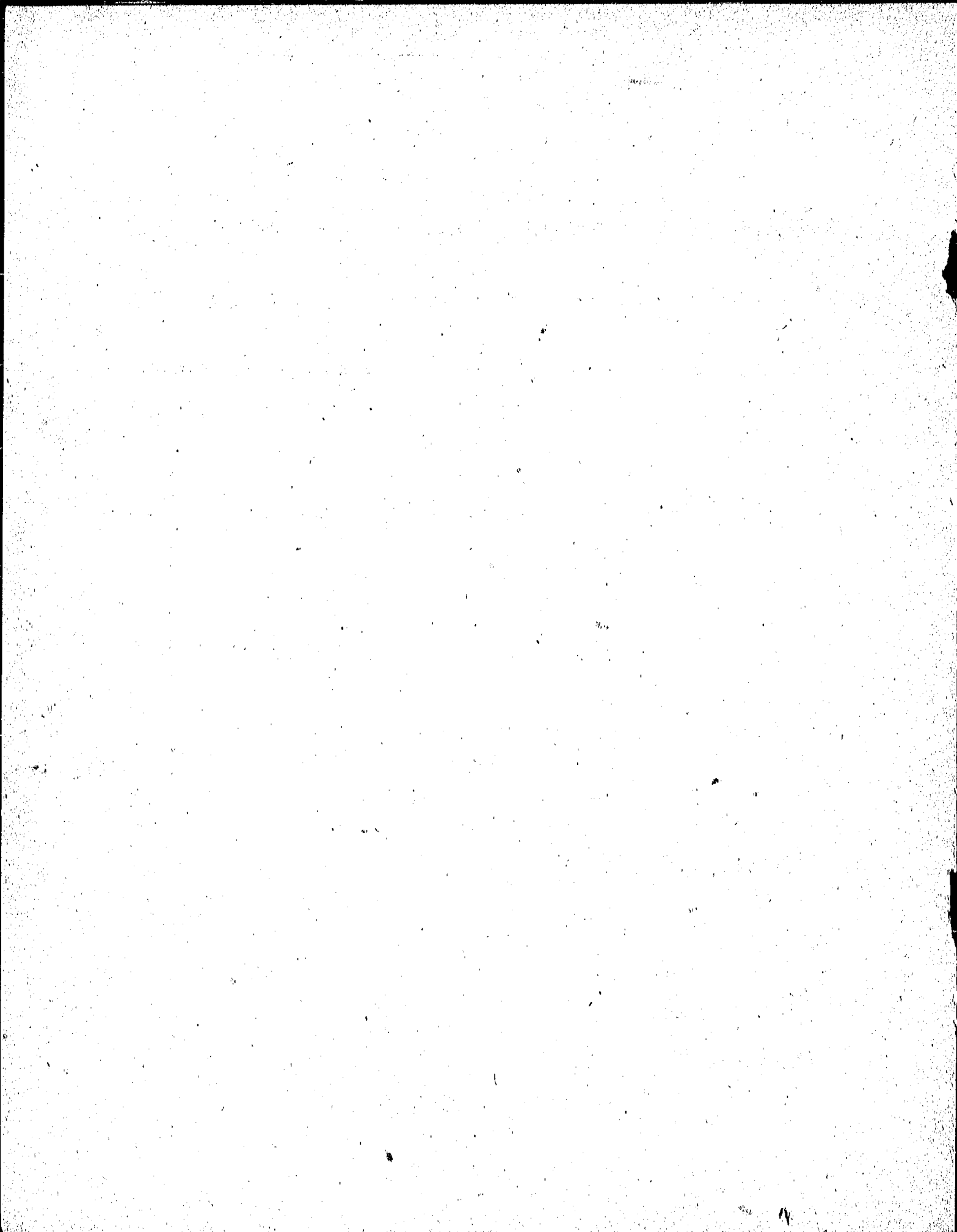
は し が き

本資料は昭和30年度典型的社会集団の人口学的総合調査のうち、山梨県中巨摩郡壬穗村稲嶺について行われたものの一部で、主として農家の子女の就職及び結婚の経緯について行った面接調査の資料を事例別に記載したものである。

現地における面接調査及び本資料の執筆は共に小林和正技師による。

昭和30年3月10日

厚生省人口問題研究所



ま え が き

昭和30年9月に行われた山梨県中巨摩郡玉穂村福積における人口学的総合調査の一部として筆者は、農家の子女の就職及び結婚の経緯及び経過の問題について、戸別訪問による面接調査を行った。

第1表及び第2表に示すように、訪問戸数は25戸、調査件数は48件、即ち、48人の子女のことについて、聴取した。

その内訳は「就職」について30人、「就職及び結婚」について4人、「結婚」について9人、「分家及び結婚」について2人、「相続」について1人、「進学」について2人である。

筆者が戸別訪問して直接面接して談話を行った相手は主としてそれら子女の親で、父の場合が7戸、母の場合が14戸、兄の場合が2戸、本人の場合が2戸であった。

被調査者の年齢は、男(37人)においては、15才より33才まで、女(11人)においては、21才より33才までにわたる。

調査対象の選定は全く現地における面接上の便宜によって任意に行つたものであつて、統計的な考慮は殆ど度外視したと云つてよい。

現に就職している子供、或は結婚している子供をもつている(親と同馬、別居をとわず)親を訪ねて、そのような子供の就職や結婚がどのような経緯で、又どのような経過を辿つて成立したかということを中心に、面接聴取を行ったもので、福積村9郎選の中ら部落から各約4戸宛進んで行った。

筆者的におこなつたこのような調査の意図は、1) 親家の親がその子供を就職せせたり結婚せせたりする場合、どのような社会関係を利用し、必要とし、或は新しくつくり出すか、2) 家の勞働力の保料と子女の就職・結婚による勞働力からの離出とを實際に各農家ではどのように調整しているか、3) 子女の就職や結婚について親家の親はどのような一般的な態度や考え方を示すか、ということを検討するにあつた。

しかし、これらの意図に劃入された考察は本資料の段階ではない。

第1表 訪問世帯別(耕作面積大小順)調査内容別被調査者の続柄と人選

No.	耕作面積(甲)	部落	就取	就取結婚	結婚	分家結婚	相続	進学	件数(人)	談話者
1	285	高橋	三男	次男	長女				3	母
2	240	高橋	三男		次男(2人)			四男	3	母
3	233	中橋	次男 三女		長女 次女				4	母
4	160	上成島	五男	三男		次男	四男		4	母
5	147	井ノ口	次男 三男						2	父
6	132	上成島	弟						1	兄
7	131	上成島	次男						1	本人
8	130	井ノ口						次男	1	母
9	128	中橋	三男						1	母 兄
10	127	極楽寺				四男			1	父
11	126	下成島			長女				1	継母
12	123	下成島	次男 三男						2	父
13	120	中橋		次男					1	父
14	115	極楽寺	長男 次男 四男						3	父
15	114	極楽寺	三男						1	父
16	102	中橋			長女				1	母
17	984	下成島	次男		次女 四女				3	母
18	989	上成島	次男						1	母
19	980	井ノ口	三男						1	本人
20	974	下成島	長女 次男 三男 次女						4	継母
21	970	極楽寺	三男 四男						2	父
22	964	中橋	次男						1	母
23	961	井ノ口	弟 弟						2	兄
24	928	下成島	次男	長男	長女				3	母
25	不詳	極楽寺	次男						1	母
計(件数)(人)			30	4	9	2	1	2	48	

別 人 別 年 令 の 指 査 調 査 被 査 之 票

年 令	男	女	計
15	2		2
16			
17	2		2
18	3		3
19	2		2
20	4		4
21	2	2	4
22	3		3
23	4	1	5
24	2	1	3
25	2	2	4
26	1		1
27	3		3
28	2	1	3
29	2	1	3
30	1	2	3
31			
32			
33	1	1	2
不 詳	1		1
計	37	11	48

本資料は、前掲によつて得た記録を整理して發表するにとどめなけり
はならぬ。

調査した事例は第ノ表に示した如き世帯に配列して記載した。

各世帯毎に、先づ郎名、料作面積、世帯の成立時期、世帯員数及び
談話者名を記し、それによつて各事例を記載した。

各事例は先づ被調査者の世帯主に対する続柄を示し、その次に関係す
る項目をカッコで囲み〔例えば就取の場合は(就取)、結婚の場合は(結
婚)〕といふふうに示す。その次に年令を示した。

なお、便宜のため続柄の前に △、○、▲、●、の記号を附した。
△、○、は夫々未婚の男子及び女子、▲、●、は夫々既婚の男子及び女
子を示す。

事 例 の 部

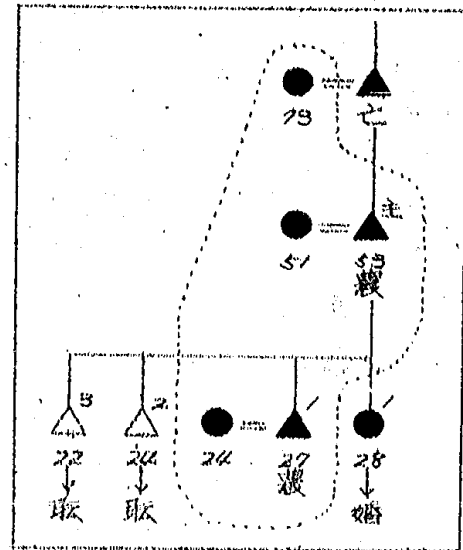
◎ 家系図の見方について

各事例には当該世帯の家族構成を家系図によつて示してあるが、この家系図に使用した数字、文字及び記号は次の如くである。

1. ▲ 既婚男子、 △ 未婚男子、
● 既婚女子、 ○ 未婚女子、
2. これらの記号の下の数字は年令を示す。
3. これらの記号の右肩の数字は、男女別出生順位を示す。
4. 矢印あるは他出者。
5. 「農」或は「商」は自家で農或は商を営む意。
「勤」は通勤、「学」は通学、矢印にて「取」とあるは取出、同じく「婚」とあるは婚出、同じく「分」とあるは分家、同じく「学」とあるは遊学を示す。
6. 「主」とは世帯主の意。
7. 点線で囲んだ部分は世帯員。

No. 1

部 落 : 高 橋
 耕作面積 : 田 2.20 町
 畑 0.65 町
 計 2.85 町
 世帯の成立 : 明治以前
 世帯員 : 家族員 5 人
 談話者 : 母 (5ノオ)



▲ 次男 (就取、結婚) : 24 才

甲府商業高校を 6 年前に卒業。父 (5才) の弟が東京神田で薬の卸売屋をしており、その人から話をとって来たが、自分でそこにゆく希望をとっていたので入った。こういう叔父がいたので、その他の就取は一つもさがさなかった。昨年同様に店をとった。店をとつのに、家から 85 万円を現金で 1 年間に何回かづゝとつて行つた。その他 100 万円を叔父が借してくれた。これは返さねばならない金である。現在店では薬剤師をやっている。友人の世話で東京の人を嫁にとらつた。

△ 三男 (就取) : 22 才

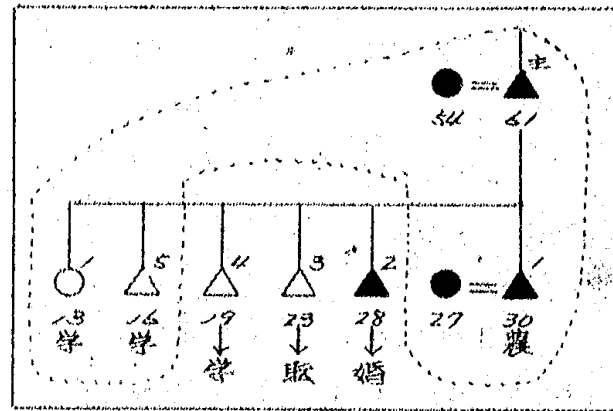
峡中中学卒。家の平仮いを 5 年やった。去年長男に嫁をとらつたので、三男が平仮をやめてと、一時平不足を感じただけであつた。三男のために家へ新家をたてると云つていたが、体が弱いので、叔父の所へゆくと言つていたが、兄 (次男) が店を開いたので、兄の店に行つた。

● 長女 (結婚) : 28 才

22 才で結婚。正諸村農家に嫁入。夫は長男で両親がある。夫は父の母の姉の息子の息子に当る。

No. 2

郡 落 : 高 橋
 耕作面積 : 田 1.85町
 畑 0.55町
 計 2.40町
 世帯の成立 : 明治以前
 世帯員 : 家族 6人
 使用人 1人
 世帯主 (ノコオ、子守)
 談話者 : 母 (54才)



▲ 次男 (ムコ入) : 28才

主幡農林卒。甲府市農家にムコ入。田畑1.8町を経営。
 その他菜種しほりをやっている。妻は両親あり。稲積村に本人の同級生(女)があつて、その人が嫁に行ったが、その人の小姑がムコをとらねばならなくなつて、話をきいて来たのが縁となる。

△ 三男 (就職) : 23才

約5年前主幡農林卒。東八代園芸試験場に勤務。こゝへは農林校の先生の世話で入った。勤めながら下部短期大学夜間部を3ヶ年卒業。弟(四男)が大学に行くから俺も行くぞと云つて通学したのである。

△ 四男 (通学) : 17才

本県甲府一高卒。直ちに明治大学英文科入学。小遣として3ヶ円分ノコ、000円に米ノ斗5升、ミソノタル、その他野菜などを付けてやる。

No. 3

郡 落 : 中 橋
 耕作面積 : 田 1.93町
 畑 0.40町

計 2.35町

世帯の成立 : 明治以前
 世帯員 : 家族員10人
 談話者 : 母(49才)

● 長女(結婚) : 27才
 5年前結婚。夫は蚕糸高校卒。御所村農蚕糸課災災出張所勤務。

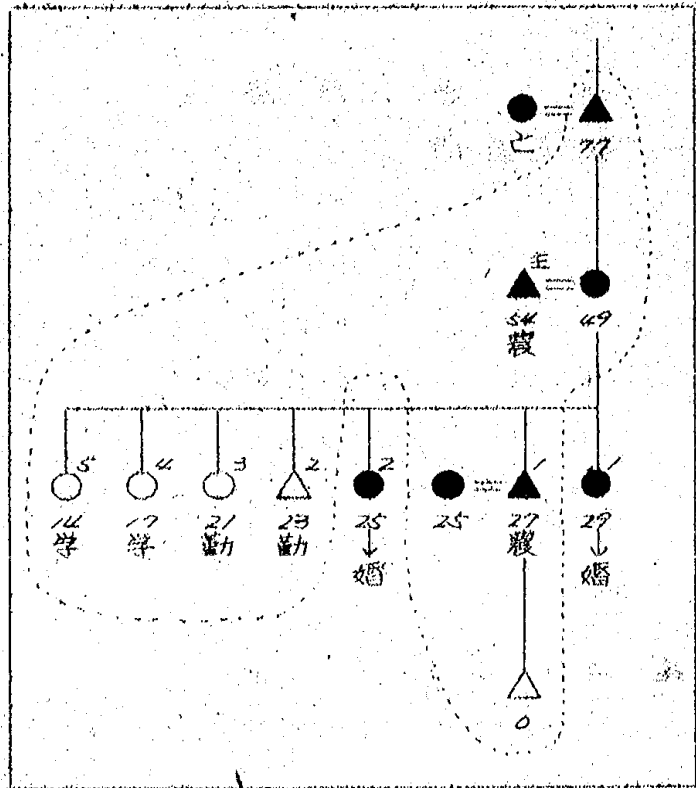
● 次女(結婚) : 25才
 長女の結婚の1週間後地方から直接云つて来た。こちらでは突然のことさびつくりした。嫁入先は甲村市。

△ 次男(就職) : 23才

壬幡農林高校卒。成績よく専攻科卒。成績よく先生の推薦で山梨県農協に約4年前に入った。係長補佐。

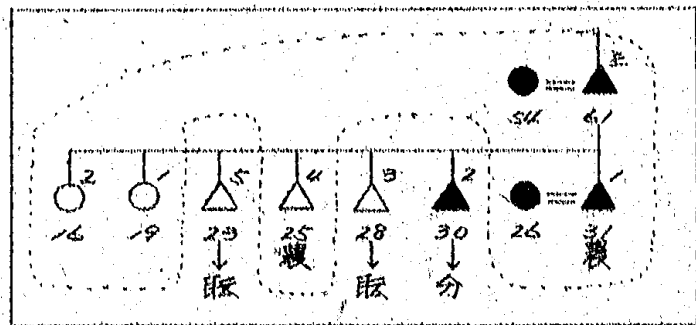
○ 三女(就職) : 21才

甲府高等学校卒(19才)。甲府モード部裁縫院卒(20才)。村の農協理詰から、勤めの気持があったの明白試験があるから受けとみよと云われ、受けと採用された。村農協事務員。



No. 4

部落 : 上成島
 耕作面積 : 田 1.25町
 畑 0.35町
 計 1.60町
 世帯の成立 : 明治以前
 世帯員 : 家族員7人



談話者：母(54才)

▲ 次男(就取、分家、結婚)：30才

戦後復員してから、新聞の広告をみて日本鋼管(川崎)に入った。ノ年間事務系総の仕事をしていたが、脚気になりやめて帰って来た。5年前のことである。昭30.3に結婚し分家した。分家の家は4年前から建て、いた。結婚するまではそこに寝起きだけして食事は本家に食べに来ていた。親類の世話で田舎村から嫁をとらった。分家した耕地は0.53町。

△ 三男(就取、結婚)：28才

戦前に農林校卒。軍医として台湾にゆき、マラリマにかかり帰って来てから、村の医師にかゝっていた。昭29.9に大森消防署に入った。

新聞の募集広告をみて試験を受けたのである。ホース掛をやっている。はじめ消防署の寮に入ったが、その後寮が間鹿々々しくなり、現在は石蔵間を借りて住んでいる。同じ署につとめている友人の世話で大森在住の人を嫁にとらった(昭30.3)

月収ノ万4,5千円。部雇代3,000円。

△ 四男(職)：25才

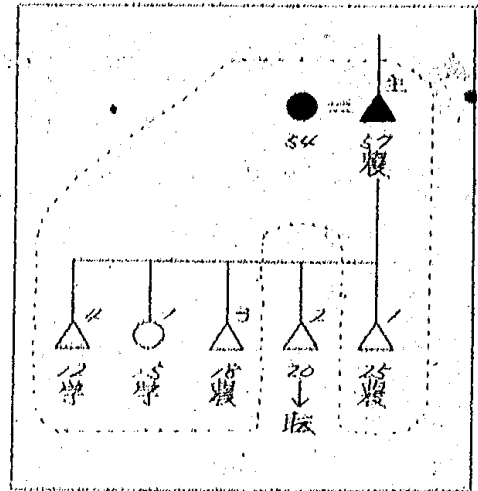
三村高小卒。卒業したのが丁度戦争中(昭20.3)で上の学校へゆけなかった。それ以上の上の3人は兵隊に行つて留洋だし、農産をたのみたくてと人はなしで、小学校を出たばかりの四男は中学にゆがずに野良仕事を平接りねばならなかったからである。この子が相続予定。

△ 五男(就取)：23才

三村小卒。昭29.9新聞広告をみて試験を受けて、東京神田の印刷所に入った。ノの人位雇われしているという。現在では熟練工となり、俺がいなければ駄目だ、というまでになった由。月収2万円。会社の三階に泊っており、部雇代はあまりかゝらない株だが、外食をしているので食費にかなりかゝると云っている。

No. 5

部 落 : 井ノ口
 耕作面積 : 田 八ノク町
 畑 六ノヨ町
 計 一ノムク町
 世帯の成立 : 明治以前
 世帯員数 : 家族員八人
 談話者 : 父(57才)



△ 次男(就取) : 20才

甲府一高夜間部昭三の卒業。学校への求人同少しでなかった。園鉄に入社とさうさう親類の着が益かしてくれたが、今年は採用がないと云うことと駄目だった。予備隊の試験を受けたが、まだ通知は来ない。昭三の夕に東東回裏のメッセをして鹿島店に入ったが、客人として行ったのである。本採用ではない。二十日父の知人(昭和村の農家)が二の上場の人を親類関係を知っていたのである。住込み。二の上場へは農家で働くことは行つたが、本人の希望とおりの所ではない。夕暮から夕間計では家の仕事を平儀つたが、百姓仕事は好きでない。事務系続の仕事が一番好んでいる。

△ 三男(就取) : 19才

映中中学卒。卒業後筆記学校にノ年行つたが、二川は面白半分気味で通つたもの。まだ二にも就取していない。丸通あたりには知人があるが、駄目らしい。本人は火照い所をのぞいてる。父としてはこの三男は今すぐ戻らなくては困る。今年のお月の末頃、甲府の土建業の新聞の広告が何かをみて、本人が申込んで、地方から来いと云われ、本人は行く気があつたが、父が反対してやめさせた。長男(25才)の嫁を二は聞かぬ。来年あたりからやりたいと思つている。今年のお月から来年の暮位まではどの位の暇は困ると思つている。長男が嫁を二のめは二は聞かぬ。二は聞かぬ。二は聞かぬ。二は聞かぬ。

No. 6

部 落 : 上成島

耕作面積 : 田 0.92町

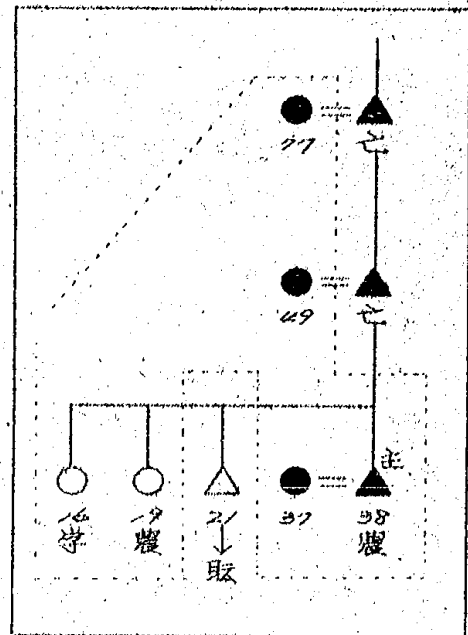
畑 0.40町

計 1.32町

世帯の成立 : 明治以前

世帯員 : 家族員6人

談話者 : 兄(38才)



△ 弟(就取) : 2才

甲府工業高校卒。卒業の年より昭30.4まで、豊田自動車の甲府のサービス工場の整備士として働いた。これは学校へ

求人申込としてあったので、試験をうけて入れたのであるが、同時に、酪農関係で私(兄)が知合っていた乙黒部落のS氏が豊田自動車の専務をしている関係もあって、この人に宜しく頼むと云っておいた。

昭30.4に父の弟が経営している東京の商店で人手不足で忙しいからぜひ来てくれというので、豊田をやめて、この叔父の店に行った。この店は船具品の取売業で6人の店員がいる。たまたま店の運転手が年とつと若い者と交替させようとしていた所だったが、本人が豊田自動車で運転免許証をとつていたので、店で自動車の運転をやることになった。

豊田にいた頃はうちから通勤していた。月収5,000円に時間外手当があった。現在は叔父の店に住込んでいる。東京では家から通っていたときとちがって、食費がかかる。

No. 7

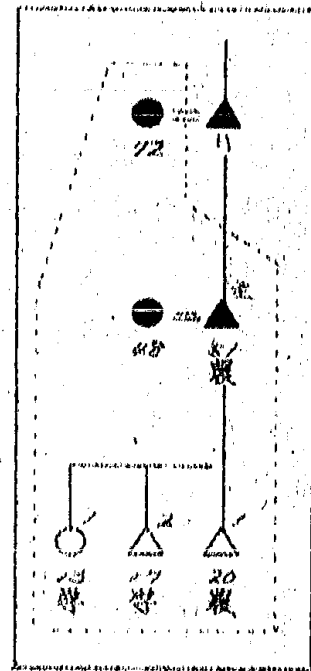
部 落 : 上成島

耕作面積 : 田 0.97町

世 帯 頭 : 家族頭 6人
 談 話 者 : 母 (45才)

△ 次男 (通学) : 17才

峡中中学卒。至幡蓼林後前部在学。昭2、3卒業の予定。家は平不足なので、卒業が伸びる。後前部の校舎は山城村にあり、片道40分かかる。昼間は家業の手伝いをし、午後4時すぎに帰る。朝日湯は5時半に起るが、この次男だけは職場を詐し、6時半に起る。この次男の将来については(親として)何も為えていない。



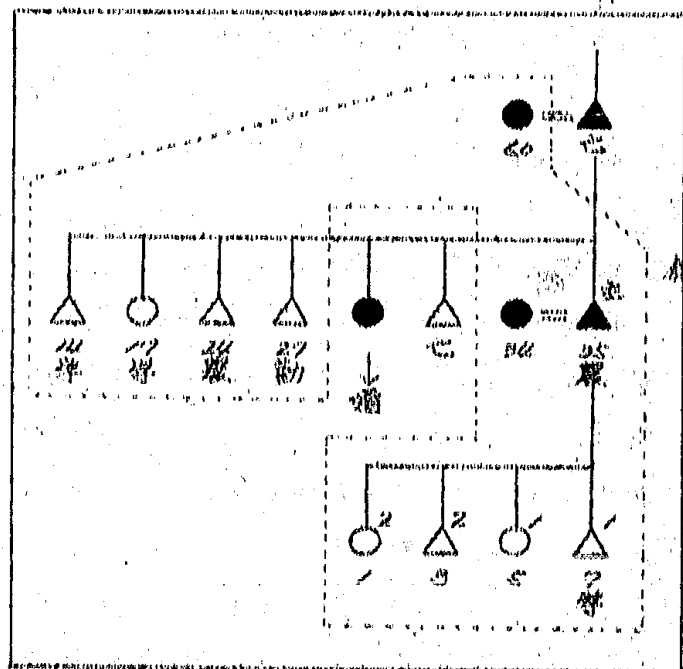
No. 2

部 落 : 中 棚
 新 作 面 積 : 田 1.05町
 畑 0.23町
 計 1.28町
 世帯の成立 : 明治以前
 世帯頭 : 家族頭 7人
 談 話 者 : 母 (45才) 及び
 父 (60才)

△ 三男 (就職) : 27才

正村小学。下成島のM氏の
 水産加工場に昭24年

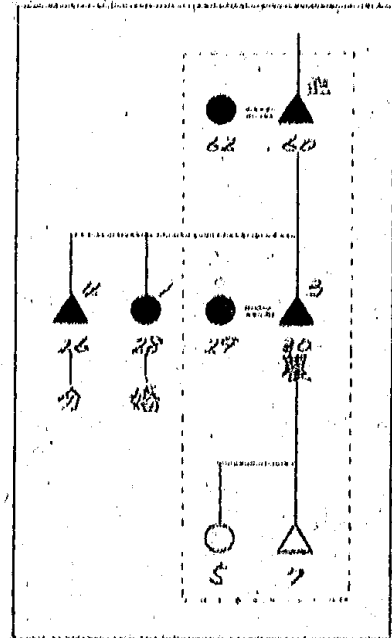
までつとめていた。昭24年この加工場の人から来たときとあつて来たので行くようになったのである。昭25年に結婚し、昭28年甲府の飯間へ引越した。この理由は、水人は商姓をしないから別世帯にしなけ



川はなれないこと、貸前田舎にはないこと、本人が町生鶏をしたい気持ちがあったことによる。しかし甲府に世帯をかかえたので、成金町を通うのが遠くなった。たまたまその加工場のM氏の親せきに甲府市島根町の水道加工場（当、女入雇っている）主があり、そこに転勤した。本人の妻がその後病気で入院し、本人は昭29フに又うちに戻り、現在そこへから通勤している。同族の中、200の同担けをとり、他は妻の入院費に送っている。

No. 20

部 署 : 橋 本 寺
 新 依 面 嶽 : 田 〇 〇 〇 町
 畑 〇 〇 〇 町
 新 〇 〇 〇 町
 世 帯 の 成 立 : 明 治 以 前
 世 帯 員 : 家 族 員 〇 人
 同 居 人 〇 人 (〇 男 〇 女)
 談 話 者 : 父 (〇 〇 才)

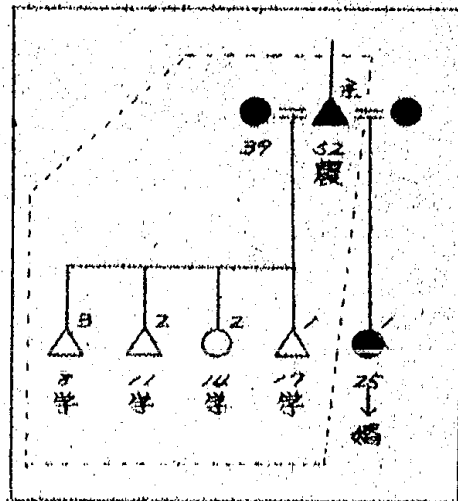


▲ 四男（分家、結婚）：26才

昭30の3に分家した。家は昭29、ノ2に新築した。ノ4へノ5万かゝった。田畑は本家からノ4分け、更に父がノ5町買収してやった。戦争中長男、次男（共に戦死）が兵隊に出でいて、この四男は家の平倅いをしていたので、母（32才）は、何かの力になりたくて四男をそばにおきたいと懇願していた。新家を出す時は、特別に儀礼的なことをすることはないが、お茶呼びをさせる。甲府の工場（水道など）に暇な時に行っている。ノ4のがせは昭30の同位。商家から嫁をかかえたが、これは以前に父がこの四男を商人にしたい気分であったからであった。

No. 11

部 落 : 下 成 島
 耕作面積 : 田 1.16町
 畑 0.10町
 計 1.26町
 世帯の成立 : 明治以前
 世帯員 : 家族員6人
 談話者 : 継母(39才)

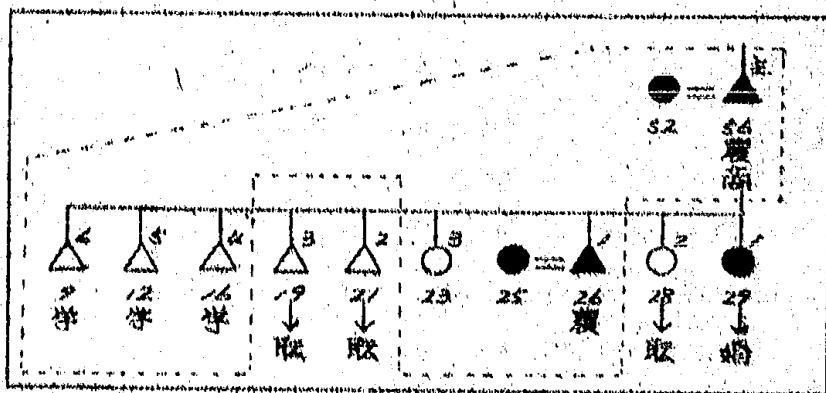


● 長女(結婚) : 25才

場田女子商業卒。昭3の5に大阪鉄道局の電気関係技術者のところに嫁入。ムコの母は隣家K氏の母親の姉妹で大阪に嫁に行った。嫁に行つてからしばらく村に来たし。又戦時中の疎開で部落の寺に住んでいた。現在のムコに当る人と、その妹と疎開中母親と一緒にその寺に住んでいた。昭27年疎開する時にいて大阪に引揚げた。寺の住職は疎開して来ている(現在のムコになっている)僧師を我が子のように可愛がつていたが、同時に長女を己嫁のように可愛がつていた。こういう関係からこの住職が仲人となつて二人は結婚した。ムコの父は大阪を走る原敷の運転手をしている。疎開中は剣道の歌に通つていた。結婚を決定したのは昭29.10。市営住宅に住んでいる。

No. 12

部 落 : 下 成 島
 耕地面積 : 田 1.08町
 畑 0.15町
 計 1.23町
 タバコ・絹織物
 世帯の成立 : 明治以前
 世帯員 : 家族員8人



談話者：父(54才)

△ 次男(就取)：2ノ才

甲府工業高校卒。就取口をさがすため、本人は大岐、名古屋方面を
かけまわつて、金を大分つかつたが、思うように見つからなかつた。
そして最後に、遠い親類(おばの嫁の妹の主人で面識なし)が横浜造船
船本何かにつとめていて、その取引先である浅草の或るモーター類の
メカカーの店にやつと困難の上入ることが出来た。学校への求人申込
は、1,000人位の人位の競争率である。現在会社の寮にいる。行く
ときは寝道具までとつていった。月収8,000円、月々家からの仕送
りはない。帰つて来た時、小遣金をとらせる程度。

△ 三男(就取)：1ノ才

甲府工業高校卒。今年の春、学校で就取を心配してくれないため、
私(父)の知合いである前村長を通じ、その前村長が懇意にしている
北巨摩郡武川村の村長に頼んで、その村にある日本製紙山梨工場に入
社してもらうよう頼んだ。現在農家を準備している。月収7,000円、
食費部歴代4,500円。学校で勉強したことが役に立たないといふの
を近く帰つて来るかと知らない。

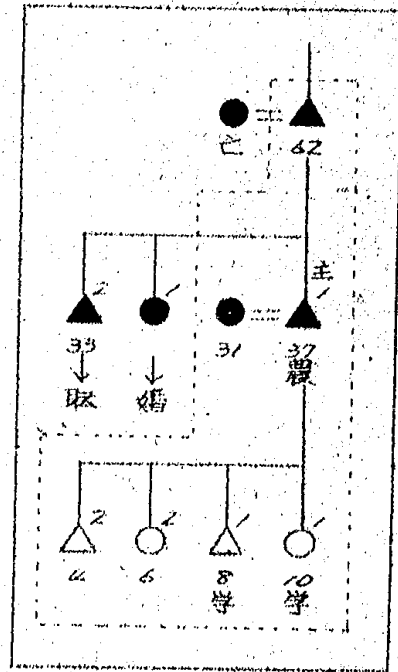
なお四男(14才、在学中)には商業をやらせたいと思う。高校を
出た時には子供自身就取のため非常にせくとのことである。

No. 13

部 落：中橋
耕作面積：田 0.94町
畑 0.26町
計 1.20町
世帯の成立：明治26年
世帯頭：家族頭7人
談話者：父(62才)

▲ 次男（就取、結婚）：33才

三村高小中退不甲府の菓子屋へ行進。中途でやめ、家へ帰って野良を少し手伝い、兵隊検査する手伝い。検査に合格し、昭2ノ5北支より帰って来た。後約ノ年間家で野良手伝いをしていた。その頃就取口をさがしていたがなかった。その頃或る新聞で日本銅管で募集する広告をみて、家に話なく自分から会社に申請書を出した。後、安住所で日本銅管の受験をした。この時はじめに家人はこれを知った。試験にはフの人ばかり来た。ノヶ月たって採用通知が来た。一緒に受験した



中合格したのは2.3人にすぎなかった。いろいろ準備をして川崎に行った。はじめの3年間はお社の寮にいた。今年の正月に家に来た時、いつまで寮にばかりといらぬわい、家をもらいたいし、嫁をほしいと云った。私（父）は、それは無理とない、家をさがして見つけろと云ってやった。その後本人より平塚の家があるから見に来てくれと通知があったので、川崎まで出かけた。ノ万円の家を、このノ万円はうちを出してやつて貰った。

No. 14

- 部 落 : 極 楽 寺
- 耕作面積 : 田 0.75町
- 畑 0.40町
- 針 1.15町
- 世帯の成立 : 不 明
- 世 帯 員 : 不 明
- 話 語 者 : 父

△ 長男（就職）：ヨクキ

三所村上河東に居住、トビ職専門、トビ取に入るために自分を選んだ知合いの親方についたのである。親と本人が自分の好む道をとるごとに賛成した。トビ職になつたのは4〜5年前で、結婚と大体同時である。嫁は三所村の出身。現在上河東の村に面借している。甲府の方を案をみつけ甲府で仕事をしたい方がよいと思つている。たゞ甲府で適当な家が見付からぬ点だけでそれが出兼ね。現に仕事の半分以上は甲府での仕事をやる。嫁は前に花火工場につとめていたが、つとめて今では家事だけをやつている。少し野菜などもつくつている。

△ 次男（就職）：ヨクキ

旧三所村小井川に面借している。前代は同じの田、妻は工場につとめている。台湾人至徳のピープン工場である。妻は遊郭村出身。次男は井戸掘、農業期の平任いなどをやつて面借している。仕事にあかぬこととある。子供ノ人あり。

△ 四男（就職）：ヨクキ

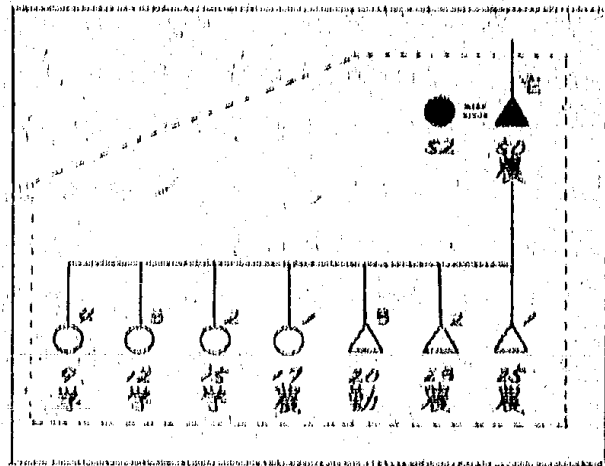
4年前に甲府商業高校卒、母校の担任教師のあつせんで日本橋の成る蔵屋同屋に入った。商業高校は就職率が高い。又同屋の社長は山梨の人である。今年の正月と途とに帰つて来た。又長野の冬に出張しての途中立寄つたことがある。大体毎に3〜4回帰省する。夜更けをたじた。同屋だから服地をうちで差分つかえる程土産に持つて来る。生活費は心配ない。いくらもらつてゐるかよく知らぬ。同屋は四階建てエレベーターで荷物を上げるような大店の店である。同屋に入る前に、父の姪が営業関係があつて、そこに頼んでみたがうまく行かなかつたことがある。

〔附 記〕

この世帯は三男があつた時として家業に従事しており、なおまだ子供が4人いる（すべて在学中）。

No. 15

部 落 : 楳 樂 村
 耕作面積 : 田 0.74町
 畑 0.40町
 計 1.14町
 世帯の成立 : 明治以前
 世帯員 : 家族員2人
 談話者 : 父(50才)

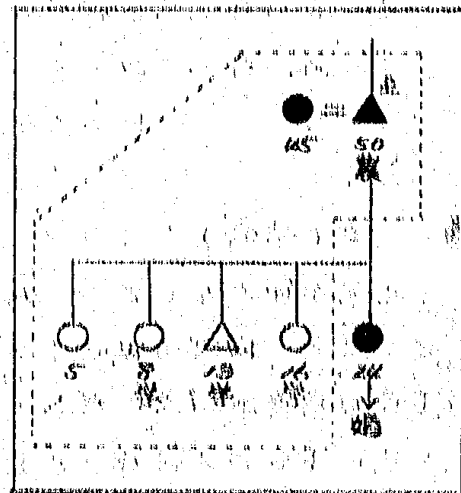


△ 三男(就取) : 20才

映中中学卒。甲府市の或る鉄工所に通勤。同部籍K氏の次男がこの鉄工所にいと、来るよう呼んでくれた。その話が入る年の10月頃から、中学の卒業を計って入った。雇主の方でと知り合い関係をどうの方が安心だと思っていた。現在鉄工所ではどうノ人になりたいと思っているのを、本人(三男)は三川村の親類の薦に来ないかと相談をもちかけている所である。この鉄工所は工員3人だが、仕事が高級とせむずかしいので、普通な地位しかつてないという。

No. 16

部 落 : 柳 宿 村
 耕作面積 : 田 2.80町
 畑 0.22町
 計 3.02町
 世帯の成立 : 明治以前
 世帯員 : 家族員6人
 談話者 : 母(45才)



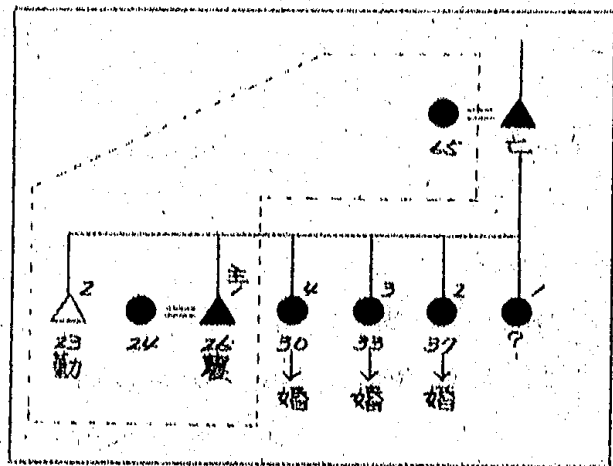
● 長女(結婚) : 24才

映中中学卒業後、甲府アート洋裁学院を一年卒業し、ついで同業

業部(生徒数約200人)に入つて、そこを出た。本人はニート在学中、或る友人あり、この友人から色々話があつて、ムコとなるべき人とのつき合ひがはじまつた。つまり恋愛をはじめた。昭27頃相手の男がうちに来た。昭28ノノに親が娘の結婚を決心した。そしてケリイレをやつた。そして昭29ノノに結婚した。嫁入先の家は夫と夫の父とは共に大工をしており、かたわら耕作をやつてゐる。パート洋裁学院に通つたのは、洋裁で身をたてたいという希望があつたから。本人は小さい時から洋裁が好きで、百姓仕事なんかいやだと考え、父も百姓などしないで、洋裁の方がよいと考えた。現在も洋裁をやつてゐるが、はじめは親せきのためにつくつてやるなど云つてゐたが、結婚してみると、田畑も使つてゐるから、子供のものをつくるのが精一杯だといつてゐる。

No. 17

部 落 : 下 成 島
 耕作面積 : 田 0.73
 畑 0.23
 計 0.96
 世帯の成立 : 明治以前
 世 帯 数 : 家族数4人
 映 詔 者 : 母(65才)
 長男(26才)



● 三女(結婚) : 33才(数え)

三女が仲人をしてやつた同部落のI氏が世話してくれ且つ仲人をしてくれ、横濱市のせんべい販賣加工を産業している家に嫁入した。I氏の長女が横濱に嫁入しており、その嫁入先の隣家をこの三女の嫁入先によいのではないかという話をそのI氏の娘がI氏に伝え、I氏がその部をうちに来たところである。夫と夫の両親と本人とで店

の経営をやっている。最近店の手がすいて、夫は昭29より建設省の横浜出張所に勤務している。嫁入道具は甲府市の家具屋で買って結婚の日前に貨車を送った。

● 四女(結婚) : 30才

27才で結婚。夫は銀行員で塩尻出身。結婚当時は姫路市に勤務。昭30.3に甲府へ転勤。現在はその銀行をやめ、あと3ヶ月の猶余を甲府市役所に勤めることになっている。この縁談は、同部落のI氏が甲府市で呉服屋を20年やっていたことあり、その頃甲府市の或る呉服屋と取引をしていて、その呉服屋の主人が甲府市の或る旅館と親類関係を目つ取引関係があつた関係から、その旅館の妻が夫の親の兄(弟)の息子の嫁さがしをその息子の両親に頼まれているのをその呉服屋に話した。そこでその呉服屋がI氏にその話をこつて来たのである。結婚当時夫は姫路にいたわけだが、いずい山梨に来る予定だったので、山梨の女性をもらいたいと考えていたのである。

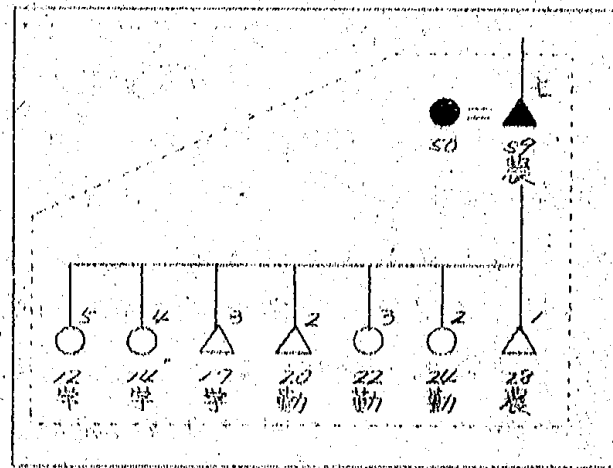
△ 次男(就職) : 23才

昭26甲府工業高校卒。卒業の前年11月に学校の送抜で友人と2人で建設省を受け、暮のうちに合格通知があつた。昭26.2に学校の先生のおっせんを甲府の或る建設会社に入った。3月卒業。その後建設省から採用通知が来た。しかしこの時本人は、男兄弟は長男と2人きりで、自分が東京に出たのはうちが困ると思い、これを断つた。昭27に次女が嫁入し、うちでは手不足となり、その後2年間長男と母との2人で働き、その間信州から春、夏、秋の農繁期に1ヶ月づつ農務を入れた。又この間は友人、親せきが手不足だろうと云つて呼んでくれた。昭29.5次男はうちの手不足のため、建設会社を辞めて呼び戻された。昭30.1に長男が結婚したので、うちの人手が出来たので、昭30.3に次男は甲府市役所の試験を受けた。前に勤めていた所は同人会社だったのでもっと将来性のある大企業所をどのかを探していたのである。合格はしたが採用がまだ来ないので、甲府の姉(長女、土建業に嫁入)が市会試験ひとつと接しており、又姉の結婚の仲人

をしてく川た人が県会議員をしているといった関係上、それらの人々に運動してもらっている。甲府市在住でない市役所につとめられないので、甲府の姉のところを技術屋を一人おいておくという形で、籍を姉の家におき、甲府市の税金を払っている。現在はうちを養っているのです川を手伝っている。次男がもし市役所につとめ出せば、うちは手不足になるが、忙しい時だけは長野に農産をたのむから別に困らない。農産は一年頼むと、次の年からは手紙一本でくるようになる。

No. 18

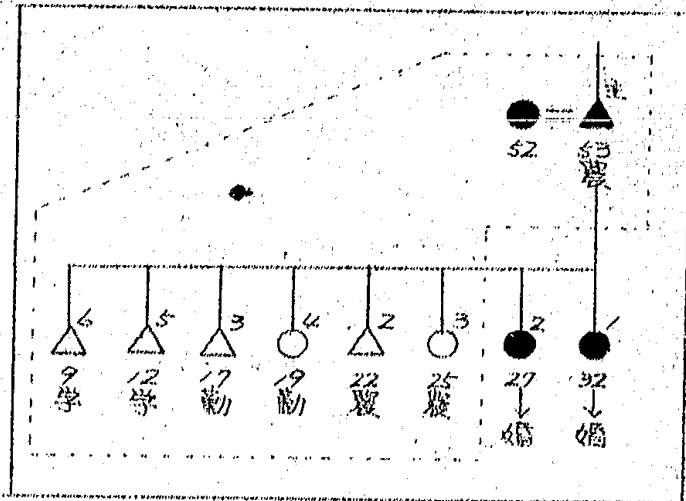
部 落 : 上 城 島
 耕作面積 : 田 0.72町
 畑 0.17町
 計 0.89町
 世帯の成立 : 明治以前
 世帯員 : 家族員9人
 談話者 : 母(50才)



△ 次男(就職) : 20才

県中中学卒。綴記学校ノ年修了(昭和28年4月)。綴記学校に来た求人の中から職せたくして川で、甲府市の或る店の店員となる。初任給3,000円。靴、ズボン、シャツなどを買おうと思えばこの位の収入では殆ど足らぬ。市に通うのであるから身なりにこそ、何にも刻つて金がかかる。通勤のため却って金が持ち出し(収入以上)になつてしまふ。午前8時前に出勤、午後6時帰宅。通勤は体からいらしい。月2回休日。

部 落：井ノ口
 耕作面積：田 0.67町
 畑 0.13町
 計 0.80町
 世帯の成立：大正ノ4年
 分家
 世帯員：家族員8人
 談話者：三男(ノ7才)

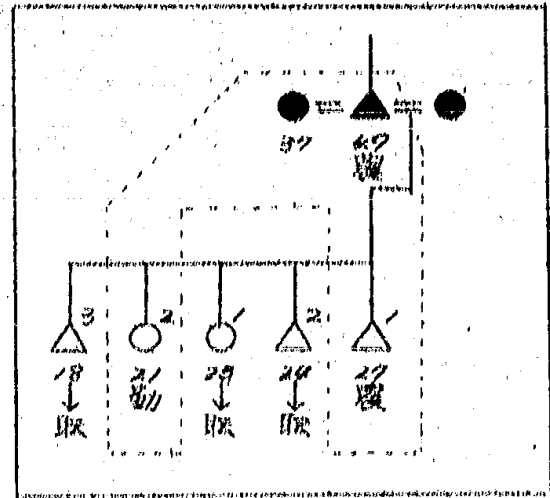


△ 三男(就職)：ノ7才

昭29.3.31 峡中中学卒。先ず東京に出たいと思い、安宿所を探すが、甲府安宿所に口さういう口がなかった。そこで数回安宿所まで電話と2人で行ってみた。そこには東京の口が四つあったが、既にふさがっていた。一方東京にいる姉の夫に東京までの就職口を、2月頃からさかしてもらっていたが、よい所がなかった。最後に学校を置いて、安宿所紹介の甲府東洋自動車修理工場に入った。主として三輪車の修理をする工場。従業員20人。午前8時30分より午後5時40分まで勤務。月収3,000円。昼と暮には1,000円くれる。入って3ヶ月たったら昇給出来るという条件だったが、いまだに(3ヶ月間)実行されていない。健康保険はある。通勤は對延線を利用して1ヶ月の定期代は約480円である、非常につかれる。紹介条件では従業員を1年に2補充くれることになっているが、まだくれない。三輪車の新車が発売されると持主は古いのを修理に出して売り、新車を買うので、こういう時期に修理工場は忙しくなる。

No. 20

部 落 : 下成島
 耕作面積 : 田 0.68町
 畑 0.06町
 計 0.74町
 世帯の成立 : 明治以前
 世帯頭 : 察族 6人
 談話者 : 妹丹(37才)



○ 長女(就取) : 29才

甲府市のパチンコ屋に住込。三村小學校卒。乙黒川島の人がこの店に勤めをおり、又この島の至徳寺と乙黒川島出身の人だという関係で、勤めることになった。昭和3の年々同より、住込みを月収5,000円位。勤務同とせと「マンミツ」(ニミツ)である。ニ、をやめて東京に出たい意志があり、母に頼る次男(東京住)に平紙を出してそのついでいるが母は返事が来ない。

△ 次男(就取) : 24才

三村小卒、昭和28年5月に東京に同郷の龍式メツで工場に入った。他人を端を従業員の人。三川村に本人の同郷の友人があり、その人のおじがその工場に行つていて、よい所だから来ないかと誘つて来たが、丁度おじか切りに出たいと思つて居る所だから来たので、そのおじから、それなら来なさいと誘つて来たのを入った。住込みを、同じ月収5,000円位だと誘つて来たが、現在おじはよくおついでいるかよく知らぬ。この前うちに東京の時ノ方同とつて来た。この工場に行く前に、静岡方面の農家に半同程農機期の平儀に行き、そこで成る女と知合い、その後婚約した。この婚約相手は今川崎の男が事務員をやって居る。

△ 三男(就取) : 18才

高松にノ行商行つていたが、悪い友人がいて、聞るからいやらしく

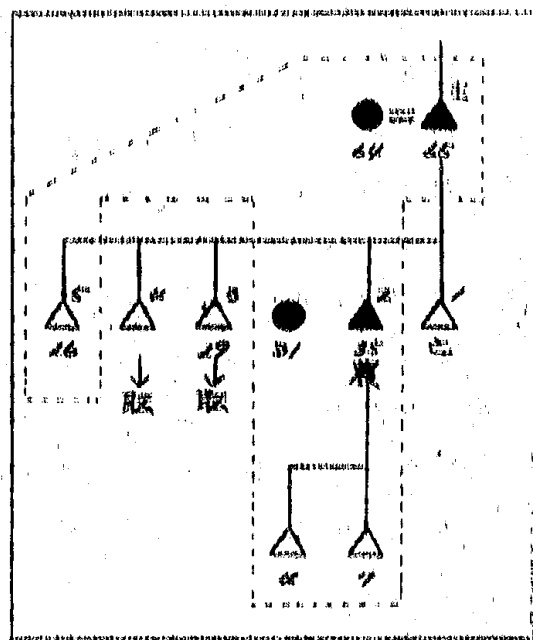
つて学校をやめた(昭20、21)。昭20、21は甲府の靴カバン造の
 商賣となる。自分も安宿所に行き、この商に積極書を出して採用され
 たもの。この商の商賣は通勤も入、住込も入。住込を同収2000円
 三井村の知人であるり氏の息子と一緒に学校をやめて、一緒にこの商
 に入った。同21昭21に帰る。住込を同収2000円は支給されるものとなせ
 る必要はなかった。

次女(就服): 2ノ女

うちの農業の平の芳は足のないから、勤めをも構わない状態に
 あった。同部端のM氏も同部端で水商工場をはじめ(昭26)、仲長
 に業をさいと然れ此で入った。M氏と同部端民同士の知り合である。
 入った後(昭26)同部800円、現在は2500円、金、農に代
 へる3000円づつ入る。

No. 21

部 落 : 極楽村
 耕作面積 : 田 0.50町
 畑 0.20町
 計 0.70町
 世帯の成立 : 明治以前
 世帯員数 : 家族員7人
 談話者 : 父(45才)



△ 三男(就服): 29才

東京中野鐵工所勤務。三村小學校
 を卒業してすぐに、母の親類の手ず
 るに入った。戦前のことである。現
 在2万円の同収がある。

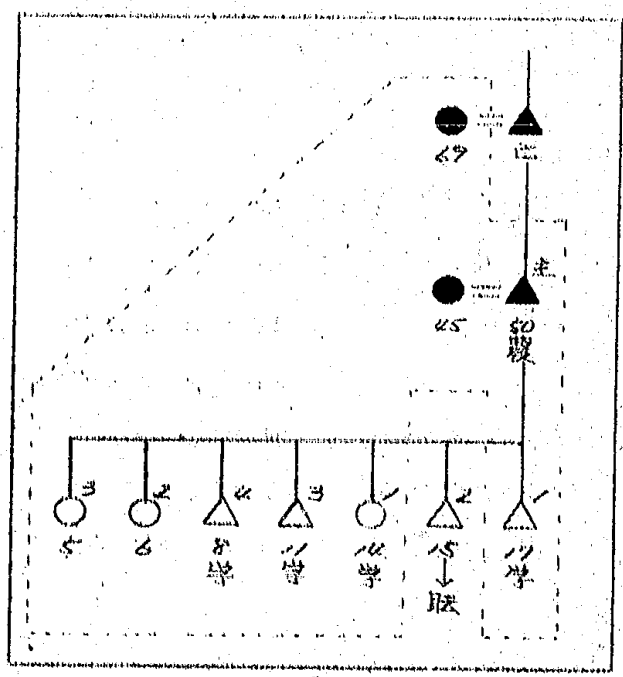
△ 四男(就服): 年令不詳

三村小學校高学年を戦前に卒業し、三男の村のといふ中野鐵工所に

才が入った。そこにノノ毎行っていた。会社の寮の一部屋に兄と同居していたが、兄がそこを妻を迎えたので、その部屋に同居するのは工合がわるくなつた。丁度その頃人員整理があつて、その適用は受けなかつたが、兄弟二人をうつてゐるのは辞めさせられる人に気の毒だといふので、部屋の都合のことも靈なつて、この鍛工所をやめた。同部屋のM氏の親類が甲府の北王子の鍛工所と親類で、このM氏が、そこに世諾してくれた。現在甲府市に間借している。この部屋は次男(農)の妻の兄(甲府在)に見つけてもらった。月2,500の円位の部屋代。月収は1万円位らしいがはつきり分らぬ。自活している。

No. 22

部 落 : 中 権
 耕作面積 : 田 0.49町
 畑 0.15町
 計 0.64町
 世帯の成立 : 明治以前
 世帯員 : 家族員5人
 談話者 : 母(45才)

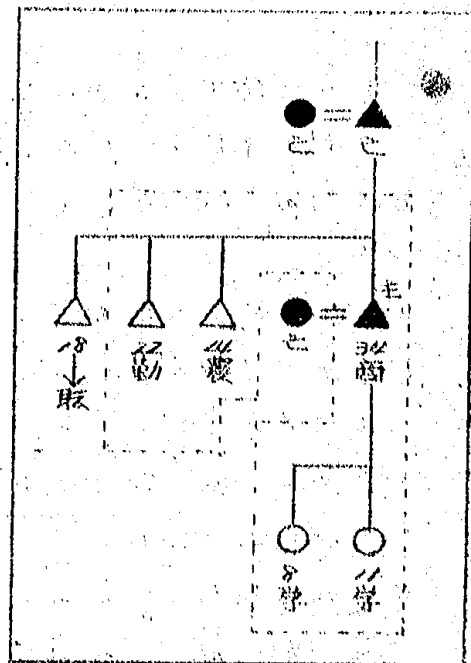


△ 次男(就職) : ノ5才
 昭和0.3 映中中学卒。親類が甲府駅につとめてゐるので甲府駅に入りたいと思つて頼んだが、ノ5才にならねば資格がないと返されたので、今度は親類からメツで雇に入社してもらつた。頼んだが、これも駄目で、本人は卒業を前にあせり出した。そこで中学の担任教師に頼んだら、丁度その日ヨ、4人の卒業生が安庭所に行く所へ一緒に行つて見つけて来るように云われ、その日、4人の友人と一緒にいった。安庭所にゆくと甲府市の或る炭坑工場がうらましいといふ申込みがあり、その場こそ川を渡

めて来た。採用がきまつてから、その工場の主人の弟がうちに訪ねて来た。その弟という人は現在は別の菓子工場を出しているが、当時は兄の工場におり、製造した菓子を売りによく、うちの辺りにも来ていたことがあって顔見知りの人であったので、この人の兄の工場とつとめるならよい案梅だと思った。弟ノ、弟ヲ日曜日が休暇、月収ノ、000円。しかし500の円はノ年定期の貯金をさせられる。休暇日以外は夕方からの遊びの外退も許さぬ。現在は任込、通いでよいが泊り込みの方が、アツクよいと云っている。泊り込みの方が平当の割はよいが、仕事はおそくまでやらされる。はじめはノ4〜ノ5人の従業員がいると云っていたが、現在は何人いるか正確に知らぬ。工場では菓子をつくるだけで売らない。工場主の親類に映愛関係の人がいて、泊り込みの取人にツダ(入場券)をくいる。

No. 23

部 落 : 井ノ口
 耕作面積 : 田 0.40町
 畑 0.2ノ町
 計 0.6ノ町
 受商を営む
 世帯の成立 : 昭和6年末任
 世帯員 : 家族5人
 談話者 : 兄(34才)



△ 弟(就職) : 22才

昭27 3 正幡製林高技卒。東京の採用試験を受け、栗沼製菓に入り、雇から准社員になった。その前に甲府のバルブ工場に入ることを考えていたが、試験は受けなかった。通勤、月収不明、本人の月収は本人の小遣い、貯金に用い、食費は兄の収入による。

△ 弟(就取)：ノ8キ

昭28.3 峡中中学卒。甲府高校ノ年中退。高校の同級生が髪をのばしたりして派手なのがいやになり。尚ほさぞ手帳おうと思つて中退した。中退後家業の手伝い(魚商)をやらせた。本人は年々まだ若く、あつちの仕事、こつちの仕事と希望した。百姓の仕事も手伝つた。今年の3月、姉の嫁入先の親せきが至寄している富士宮市の或るまじやう屋に入った。住込み。将来本人は手に技術をもちたいと思つてゐる。

No. 24

部 落：下成島
耕作面積：0.28町
世帯の成立：不明
世帯員：家族員3人
談話者：母

● 長女(結婚)：30キ

三村小學校卒。村の前収入役の娘が東栗の学校に行つていた時、伊豆大島の廻船問屋の娘と同級を懇意にしていた(丁度戦時中の食料がとちかつたから)。この問屋の娘に兄があり、この娘は兄の嫁をがしこつて収入役の娘に話した。収入役の娘は父親にそのことを話した。そこで収入役はうちに來て、うちの長女を推薦した。収入役はこつしてもお世話をしたいと思つた。うちの長女は彼場に7年を勤めていたのだから、収入役とはよく知つていたのである。問屋はとこそ家格がうちとは釣合ないが、とかくよい所なのを横次は少し遠いが長女を嫁にやることにきめた。たまたま長女は生花の免許をもつていて、花の師匠の川さん、うちの長女をさげくおいておきたいと心配してくれしたが、長女本人は横次に嫁にゆきたい。花と柳屋の方が種類を多くおぼえらるゝといふと考へた。22キを結婚。生花の弟子は20人

と習いに来たことがある。

▲ 長男（就職、結婚）：25才

巨幅農林高校卒。その翌年より小學校代用教員2年。それから予備隊に2年行って満期除隊。その後、国立病院の医事課にちよつといた。その後西郡の或る練習場を自動車運搬の免許をとり、僱員で努力費をもらつた。そして甲府の或るタクシー会社に入ったが、朝のうへ々時頃まで働くことが多く、とても体がつかず、それに手当が一番多い時のおののけにすぎないので、馬鹿々々しくたまらず、やめてしまった。横濱に嫁入した長女が、この長男の就職口をさがし、職業安定所に出していた或る広告をみて、履歴書を出すようにとうちに送つてよこした。そこで履歴書を出した。そこは大きな肉店で、駐屯軍に肉をおさめていて、それまで使っていたオート三輪車では米軍の許可が得られなくなつて、パタンとヤのしめる衛生的な自動車にかえたが、よい運転手をおさがしている所であつた。そこで採用された。本人は裏面目の酒ものはず、主人に可愛がられていて、職業安定所という所も、よい勤め口を世話してくれらることもあるものだと思つた。前につとめたことのある病院の医事課の人が嫁を世話してくれた。嫁はその病院の看護婦で、万々千円の月給をとつている。

△ 次男（就職）：20才

映中中学を卒業した後、横濱（長女がいる）の英語の学校に入ったが、長男が予備隊に入つて人手不足になつたのを家に呼ばれた。翌春甲府商業高校をうけたが不合格。農林高校から来いと認められ、自分は次男だから何と云つても商業を出たいと思つて商業の夜間に入った。夜間に通つている間、昼間は家の野良仕事を手伝つていた。昭29に夜間を卒業した。卒業後、自分を新聞を見て、甲府の或る裏面同屋にちよつと勤めたが、この主人が金づかいしたので、二人は主人のところにいては、「自分がオエル」と思つて自分からやめた。その後、友人だか、知人だかに頼んで甲府の或る個人産物の施設工場に入った。うちではこの次男は漸く人にしたいと思つている（本人

は気がマアマアマアしてゐる)の事、私(母)は反対した。しかし本人は技術は喋いっは"を"れがなからいといふと云つて入った。現在、坂の通勤し、日給22の門にしかたない。要領の學校を途中るやめさせずに弄えさせていれは、貿易関係などに進めようかつたのにと残念に思つてゐる。

No. 25

郎 蕩 : 極 楽 寺
制作面積 : 不 明
世帯の成立 : 不 明
世 帯 概 況 : 不 明
談 話 者 : 母

△ 次男(就職) : ノ5文

昭三の、々 映中中學校、中等の現職を東京戦車の職を勤めつとめしている人があり、その人が自分のつとめしている所の近くの島(館原)を島園として入川とく川を辨があるといふ語をうちにそつて来たといふ。本人は術技に違つてもりる勿論し、工業を興けたが失敗した。ノ5年入しとと就職をうけるに中等の現生に取つたが、この現職が語をそつて来た島に入ることにして探問された。住込みる周囲るのののの。自分でその中中分位貯金してゐるらしい。勘ノ、多日曜休園、其は一歳と罪せさせとく川ない。衣類は親が心配せ物はなない。

参 考 の 部

I 村の概要

稻嶺村は甲府盆地の南に位する水田沢村を面積473町歩、人口1,230、世帯数353、うち兼家世帯数299、を数える(調査当時、昭30.9)。昭30.3西隣接村の三町村と合併して玉穂村となった。

本資料では村の名称は合併前の名称を用いた。このことは本資料に収める他の町村名についても同様である。

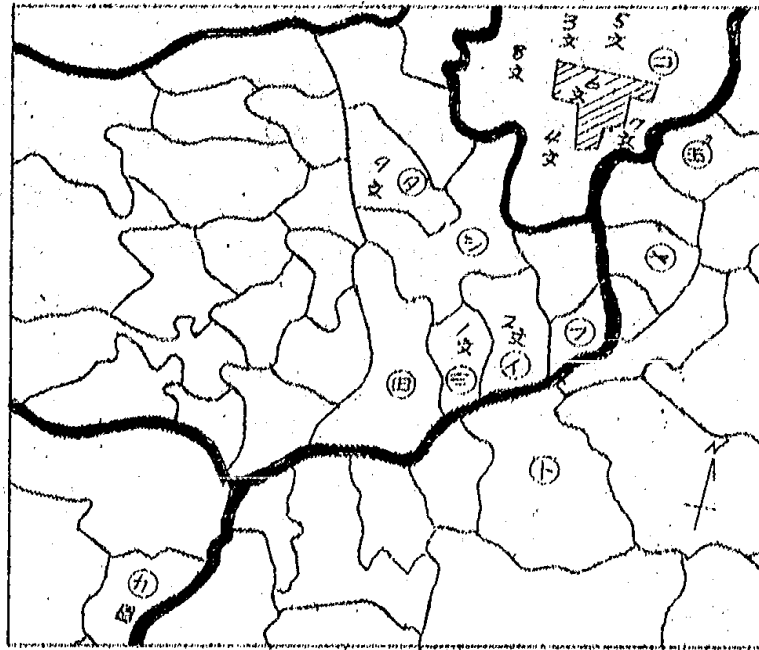
本資料関係の稻嶺村周辺の町村の位置を附ノ図に示した。

II 学 校

稻嶺村の子供が通学する小学校は三町村にある三村小学校である。新制中学が設置するまでは、村人の教育程度といえば、この三村小学校の進学率は高率というのが正樹的に多かった。

現在は稻嶺村に新制中学として映中中学校というのが設置されており、三村小学校のほか近隣の数校の卒業生がこの中学校に進むことになっている。この映中中学の卒業生は近年はその7.8割が高校に進学するという。

第ノ図 稲積村周辺の市町村と学校



①	稲積村	小学校
②	三村	中中學校
③	田窪村	一高學校
④	昭至村	三高學校
⑤	昭至村	高學校
⑥	昭至村	高學校
⑦	昭至村	高學校
⑧	昭至村	高學校
⑨	昭至村	高學校
⑩	昭至村	高學校
⑪	昭至村	高學校

—— 村境取線 ——— 郡市境取線 ▨ 市街

市町村の境取は昭29. 3. 1. より始めた町村合併以前の旧境取を以て示した。

峡中中学校の卒業生が進学する高校は養林高校を除けばすべて甲府市にある。

普通の高校としては県立の甲府一高（主として男子）、甲府二高（主として女子）、甲府高校があり、実業高校としては、県立の商業高校、工業高校、養林高校（垂幡村）及び私立の場田女子商業高校がある。

筆者の聴取した範囲で村民及び教員の見解を総合するとこれらの学校の格付けは大よそ次のようになると思われる。

- | | | | | |
|----|---|---|---|---------------|
| 1. | 甲 | 一 | 高 | |
| 2. | 甲 | 二 | 高 | |
| 3. | 工 | 業 | 高 | |
| 4. | 商 | 業 | 高 | |
| 5. | 養 | 林 | 高 | （科によって格がちがう）。 |
| 6. | 各 | 校 | 夜 | 間 |
| 7. | 甲 | 府 | 高 | |
| 8. | 場 | 田 | 高 | |

学校所在地は附ノ圖に示してある。